

土浦市国際交流協会設立30周年記念誌

土浦市国際交流協会 30年のあゆみ



目次

ごあいさつ	
会長あいさつ	1
祝辞	
名誉会長あいさつ（土浦市長）	2
顧問あいさつ（土浦市議会議長）	3
顧問あいさつ（土浦商工会議所会頭）	4
姉妹都市パロアルト市長祝辞	5
ネイバーズアブロード会長祝辞	6
友好都市 フリードリッヒスハーフェン市長祝辞	7
協会概要	
協会概要	8
役員紹介	
副会長あいさつ	9
部会長あいさつ	10
30年のあゆみ	
30年のあゆみ	12
30周年に寄せて	
竹内 裕	21
市毛 知恵子	22
吉田 俊夫	23
中島 敬子	24
ジェニファー・ブエンロストロ	25
三ツ井 美智	26
清藤 恵子	27
小野澤 秀人	28
宮本 いみ子	29
梁田 海斗	30
資料	
土浦市の外国籍住民推移	31
歴代役員名簿	32
国際交流協会規約	34



土浦市国際交流協会設立30年のあゆみ

土浦市国際交流協会会長 藤田 佑子

平成4年2月29日に当協会が設立して30周年を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

初代武井会長、二代目小城会長、三代目瀬古澤会長の強いリーダーシップに導かれ、これまでの多種多様な活動をお引き受けして、微力ながら国際交流事業を展開してまいりました。

設立当時の事業を振り返りますと、「地球市民ふれあいセミナー」では市内外から大勢の意欲ある若い人たちの参加があり、活動を盛り上げてくれました。各分野の専門家の先生より国際感覚、異文化理解の大切さを学び、さらには現地の人々と直接ふれ合って交流する海外研修へと発展していったことが、この交流活動の原点のように思います。

時は過ぎ、事業の一つである中学生の交換交流事業は、今までのオーストラリア、シドニー市から土浦市の姉妹都市であるアメリカ、パロアルト市へと移って10年、この体験を通して、世界へ目を向ける意欲へと成長していく参加者の姿を頼もしく感じています。しかしながら、令和になって新型コロナウイルスが世界中にまん延し、新たに変異株が猛威を振るっています。令和2年度から3年度は中学生交換交流事業をはじめ日本語教室など多くの事業が中止や規模の縮小を余儀なくされました。

このような厳しい状況の中でも、令和2年度には、会員のご協力を受けて、日本語教室に通う受講生と留学生に、物資を支援出来たことは幸いでした。また、令和3年度には日本ベトナム協会茨城支部様からの呼びかけにより、共催して市内で学ぶ学生たちや研修生たちに物資の支援協力をさせていただきました。

また、当協会の継続事業の一つでもある青年海外協力隊で活躍された方々の報告会には、刻々と変わっていく世界情勢の中に飛び込んで発展途上国で活躍されている若い人たちの体験談に感動を覚えます。最近学生の参加者も増え、少なからず影響を与えているのではないのでしょうか。

今、欧米ではアジア人に対するヘイトクライム(人種や国、宗教に対する偏見)で暴力を振るわれている人々の存在の報道を耳にします。土浦市には4,400人の外国人登録者がおりますが、たとえ国や言葉が違っていても互いに尊重し、思いやる気持ちが良好な関係に繋がっていくものと信じています。

おしまいに、これまで活動のご理解やご支援を賜りました土浦市、共に支えて下った副会長、部会長、はじめ会員のみなさま、事務局や全ての関係者の方々に感謝を申し上げますと共に、新型コロナウイルス感染症の早期終息を願い、みんなで参加・活動が出来る土浦市国際交流協会のさらなる発展をめざして精進してまいります。

祝辞



土浦市国際交流協会設立30周年に寄せて

土浦市長 安藤 真理子（名誉会長）

この度、土浦市国際交流協会が設立30周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

貴協会は、平成4年2月に設立されて以来、市民を主体とした幅広い分野における国際交流を推進し、国際感覚を持つ人材の育成と国際化に向けた地域づくりのために、各種交流事業や講座など、幅広い活動を展開されてこられました。その功績は、本市の国際交流そのものと言っても過言ではなく、歴代会長を始め、会員の皆様のたゆまぬ努力と熱意に深く敬意を表します。

さて、本市では、平成6年から、ドイツ・フリードリッヒスハーフェン市と友好都市を、平成21年にはアメリカ・パロアルト市と姉妹都市を締結し、かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン大会への選手招待やパロアルト市との中学生交換交流事業などを通して親善を深めてきましたが、このような友好関係を築いてこられたのも、ひとえに貴協会の御尽力の賜物と存じます。

そして、カレーフェスティバルへの出店、土浦キララまつり七夕おどりへの参加など、国際交流のみならず、本市の賑わいと魅力向上にも多大なるご貢献をいただいております。厚く御礼申し上げます。

さて、近年、様々な分野で国際化が進む中、外国人市民や訪日外国人は増加の一途をたどり、コロナ禍による一時的な停滞はあるものの、今後もその傾向は続くものと予想されます。

本市でも、現在4,400人を超える外国人が在住しており、国籍や文化の異なる外国人と日本人が、市民として、地域づくりに参加する多文化共生の環境づくりは、ますます重要になってまいります。そのため、本市におきましては、令和2年3月に「土浦市多文化共生推進プラン」を策定し、関係機関や団体の皆様と連携を図りながら、市民協働による多文化共生のまちづくりに取り組んでいるところです。こうした中、日本語ボランティア養成講座や地域ふれあい事業を実施するなど、多文化共生社会の実現に向けて、御尽力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

30年の長きにわたり、熱意あふれる活動を続けられている貴協会におかれましては、今後も更なる御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

また、ロシアによるウクライナへの侵攻に対しましては、攻撃は熾烈を極めており、戦火にさらされているウクライナの人々を一刻も早く救うために、今、国際社会が一致団結して、ウクライナへの支援を行っていかねばなりません。本市では、国際平和への祈りを込めて、募金によるウクライナ支援を行うこととし、募金箱の設置にご協力をいただきました。土浦市国際交流協会、土浦商工会議所、新治商工会の皆様にも、深く感謝申し上げます。

ウクライナに一日も早く平和な日々が戻ることを心からお祈りいたします。

結びに、土浦市国際交流協会の益々の御発展と藤田会長を始め、会員の皆様方の御健勝と御活躍を心から御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝辞

土浦市議会議長 小坂 博（顧問）

土浦市国際交流協会が、このたび創立30周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。市議会を代表いたしまして、こころよりお慶び申し上げます。

土浦市国際交流協会は、平成4年2月に発足し国際交流活動や地域で生活する外国人との共生に向けた取組など、着実に成果を挙げてこられ、そのご努力に対し深甚なる敬意を表する次第でございます。

外国人市民の増加とともに、地域住民との共生、安全で安心ができる生活、活動しやすい開かれた地域への必要性が高まっており、生活情報の提供や相談対応、地域住民との交流の場の創出など、貴協会のさまざまな施策の展開は、本市の国際化に大きく貢献してこられました。

なかでも交換交流事業において、姉妹都市であるアメリカ合衆国パロアルト市との中学生の海外派遣や海外訪問団の受け入れなどを通して、官民一体となった都市間交流による市民交流の輪が広がっておりますことは、この上ない喜びであります。この取組は、本市の活性化に大きく貢献するとともに、創造的で個性的な魅力あふれる多文化共生社会を推進していく上で欠かすことのできないもので、関係各位のご尽力に心から感謝申し上げます。

現在の世界情勢は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、先行きに不透明感が続く中、数次にわたる波状的な感染症のまん延により、国民生活に深刻な影響を及ぼしているとともに、貴協会の各種事業が中止を余儀なくされております。新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、市民生活が正常化するとともに、国際交流事業を多くの市民の参加のもと推進できることを切に願っております。

今後も外国人市民と地域住民が共生するための体制の拡充を進めていただくとともに、相互理解と友好親善を深める国際交流の発展のため、さらなるお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。

結びに、この記念すべき30周年を契機に、土浦市国際交流協会がさらなる飛躍をされますとともに、会員の皆さまと関係各位のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



祝辞

土浦商工会議所会頭 中川 喜久治（顧問）

土浦市国際交流協会設立30周年誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

貴協会は、姉妹都市アメリカ・パロアルト市の中学生と市内中学生との交換交流事業や、かすみがうらマラソン大会に友好都市ドイツ・フリードリッヒスハーフェン市等からの選手招待、土浦キララまつりにおける七夕おどりやカレーフェスティバル等の地域イベントへの参加、日本語教室や各国の文化に触れる多国語講座等、市民の国際理解と関心を高め、国際感覚を持つ人材の育成と、国際化に向けた地域づくりに寄与されてこられました。

また、一人ひとりの多様性を認め、誰もが暮らしやすい多文化共生社会づくりの推進がこれまで以上に求められる現在、貴協会の皆様方はその経験やノウハウを活かして、地域の外国人の方々に寄り添った対応をなされ、土浦市の国際交流の発展に多大な貢献をされましたことに深く敬意を表します。

特に昨今、コロナ禍の影響により、留学生をはじめとする外国人の方々が困窮されている状況をうけ、貴協会の皆様におかれましては、多くの寄付を募り、支援物資を購入し、市内の専門学校等に通われる留学生や貴協会・土浦ユネスコ協会共催の日本語教室の生徒の方々に贈呈されました。このように、外国人の方々に常に寄り添って活動される皆様の存在は、異国の地で暮らす方々にとって、大変心強い支えとなっております。

私ども土浦商工会議所は、昨年創立75周年を迎え、「ありがとう！地域と共に75年」をスローガンに、故郷・土浦への感謝を込めて、事業を展開して参りました。貴協会が取り組まれている多文化共生社会の実現は、これからの地域づくり、地域活性化においても、非常に重要であります。今後も貴協会と協力し、だれもが暮らしやすい多文化共生の社会づくり等に努めて参りたいと存じます。

結びに、貴協会の今後の更なる発展とご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



Patrick Burt,
Mayor, City of Palo Alto

パロアルト市長

パトリック・バート

City of Palo Alto

Office of the Mayor and City Council

January 30, 2022

RE: Happy 30th Anniversary Tsuchiura Friends

Dear Tsuchiura International Association Friends,

The City of Palo Alto wishes to recognize the occasion of the 30th anniversary of the Tsuchiura International Association. At this unprecedented time in global history, we would like to express our appreciation for the warm connection shared between our two cities.

Just a few years ago, Palo Alto city leaders visited the City of Tsuchiura to celebrate our 10th year as Sister Cities and we enjoyed special moments with your organization. The visit was very joyous and filled with heart-warming hospitality and learning opportunities.

Generations of Palo Alto families have enjoyed and benefitted from the deep partnership we have had with your community. The generosity of the host families and schools in Tsuchiura has led to many years of exchanges and lifelong friendships and memories together. Palo Alto residents and our city government have a warm appreciation for Tsuchiura and appreciate the opportunity to learn and explore with you over the years.

On behalf of the City of Palo Alto, I heartily congratulate the Tsuchiura International Association on this milestone of 30 years of sharing Japanese culture with the world and promoting a vibrant exchange with Palo Alto.

Best wishes to many more celebrations of education, culture, and growth of your relationships.

Sincerely,

Patrick Burt,
Mayor, City of Palo Alto

cc:

Lydia Kou, Vice-mayor, City of Palo Alto
Bob Wenzlau, President, Neighbors Abroad of Palo Alto
Ed Shikada, City Manager, City of Palo Alto
Chantal Cotton Gaines, Deputy City Manager, City of Palo Alto

P.O. Box 10250
Palo Alto, CA 94303
650.329.2477
650.328.3631 fax

土浦市国際交流協会のみなさまへ

パロアルト市は土浦市国際交流協会設立 30 周年に際し、世界史においても前例のないこの時期に、両市で心温まる関係を築いていることに感謝を申し上げます。

数年前、パロアルト市幹部が、姉妹都市としての 10 年の節目を祝うために貴市を訪れた際には、貴協会と、特別なひとときを共有しました。心のこもったもてなしを受け、学ぶ機会に満ちた訪問でした。

パロアルトの家族は世代を超え、貴市民との深い協力のもと、その恩恵を享受してまいりました。土浦のホストファミリーの皆さんや学校の寛大なお心により、長年にわたり交換交流を続け、生涯の友情や思い出を共に育んでまいりました。パロアルト市および市民は、土浦の皆様と今日まで共に学び、可能性を追求する機会を持つことができましたことに、深く感謝を申し上げます。

私はパロアルト市を代表して、土浦市国際交流協会が、日本文化を世界と共有し、当市と活気あふれる交流を推進しながら、節目となる 30 周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

教育、文化、そして皆様との関係がますます発展しますよう、祈念いたします。



Bob Wenzlau,
President,
Neighbors Abroad

ネイバーズアブロード会長
ボブ・ウェンズロー



土浦市国際交流協会のみなさまへ

30年の歳月の中で、私達は大きな変化を目の当たりにしてきました。変化は勢いを増し、より複雑な方向へと向かっているようです。このような状況のもと、土浦市国際交流協会が、常に前向きな影響力を持って30周年を迎えられたことに、深く敬意を表します。

貴会によって、世界の人々との間で培われたつながりは、多くの学びをもたらしました。

これらの学びは、大人のみならず子どもにも及んでいます。土浦市国際交流協会の存在は、パロアルトの子どもたちにとってなくてはならないものです。パロアルト、土浦両市の子どもの満面の笑顔は、私たちが共に分かち合える、そして30周年をお祝いするにふさわしい贈り物です。

これを祝して、私達は桜の木を植えたいと思います。交流の際に子どもたちの手で植樹されてきた桜は、成長すること、美しいこと、そして継続できるということの象徴となっています。これらの木々は姉妹都市としての両市のシンボルとなっており、この節目におきましても恒例となっているイベントを継続していきたいと考えています。



Andreas Brand,
Oberbürgermeister
Stadt Friedrichshafen

フリードリッヒスハーフェン市長
アンドレアス・ブランド

Januar 2022

**Herzlichen Glückwunsch vom Oberbürgermeister der
Freundschaftsstadt Friedrichshafen**

Sehr geehrte Mitglieder der Tsuchiura International Association,

zu Ihrem 30. Geburtstag gratulieren die Stadt Friedrichshafen und ich sehr herzlich. Das lange Bestehen der Tsuchiura International Association ist aller Ehren wert. Sie leistet einen wunderbaren Beitrag zur freundschaftlichen Verknüpfung und dem Verständnis zwischen verschiedenen Ländern und Kontinenten. Sie bietet aber auch Vorträge und Veranstaltungen an, bei denen Teilnehmer aus staatlichen Freiwilligenprogrammen berichten und damit die Zusammenarbeit in den Entwicklungsländern im Bereich Wirtschaft, Bildung und sozialer Entwicklung fördern. Ein großartiger Schritt in eine globale Gemeinschaft.

Unsere beiden Städte sind seit der Landung des Zeppelins auf seiner Weltfahrt im Jahre 1929 bei Tsuchiura historisch miteinander verbunden. Voller Begeisterung und Gastfreundschaft wurde der Zeppelin und seine Besatzung damals empfangen. Diese freundschaftlichen Bande bestehen bis heute zwischen den beiden Städten. Das erfüllt uns mit Stolz und bei dieser Gelegenheit möchte ich meinen Dank dafür aussprechen.

Wir wünschen der Tsuchiura International Association weiterhin gutes Gelingen bei ihrem wertvollen Beitrag zur Entwicklung und dem Ausbau der internationalen Beziehungen und freuen uns, auch weiterhin Anteil daran zu haben.

Mit den besten Wünschen

Andreas Brand
Oberbürgermeister
Stadt Friedrichshafen

土浦市国際交流協会のみなさまへ

貴協会の設立30周年にあたり、フリードリッヒスハーフェン市を代表し、また、私個人として、心よりお祝いを申し上げます。貴協会の長きにわたる活動に対し、敬意を表します。貴協会の長年の活動は、異なる大陸と国を跨いだ友好関係と相互理解の促進に対し、素晴らしい貢献をしておられます。また、貴協会では、発展途上国の地域経済、教育、社会開発を援助する政府のボランティアプログラム参加者による報告会や、イベントを提供しておられます。国際社会への大きな一歩であります。

土浦市とフリードリッヒスハーフェン市は、1929年にツェッペリン号が世界航海中に土浦に上陸して以来の歴史的繋がりがあります。今日に至るまで、両市の間は情熱と真心に満ちた関係で結ばれています。このことを誇りに思うとともに、この場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。

貴協会が益々国際交流の発展に寄与されますよう祈念申し上げます。また、今後ともこの国際交流に参加させていただきたいと存じます。

ご多幸を祈念いたします。

土浦市国際交流協会の概要

名称	土浦市国際交流協会 Tsuchiura International Association
代表者	会長 藤田 祐子
設立目的	土浦市民を主体とした幅広い分野における国際交流を推進し、市民の国際理解と関心を高め、国際感覚を持つ人材の育成を図るとともに、国際化に向けた地域づくりに寄与すること
設立年月日	平成4(1992)年2月29日
所在地・連絡先	〒300-8686 茨城県土浦市大和町9番1号 土浦市役所 市民生活部 市民活動課内 電話：029-826-9051
会員数	個人会員91名 団体会員14団体 法人会員13団体
主な取組み	<ol style="list-style-type: none">1 国際交流事業部会<ol style="list-style-type: none">(1) 異文化交流事業部会<ol style="list-style-type: none">① JICA 筑波訪問と国際交流の集い② 中高生と外国人の食文化交流③ 海外ボランティア活動報告会(2) キララまつり七夕おどり参加2 姉妹都市及び友好都市交流事業部会<ol style="list-style-type: none">(1) 中学生交換交流事業<ol style="list-style-type: none">① 中学生交換交流事業パロアルト市受入② 中学生交換交流事業パロアルト市派遣(2) かすみがうらマラソン大会招待選手対応(3) 土浦の写真贈呈3 多文化共生事業部会<ol style="list-style-type: none">(1) 日本語教室(土浦ユネスコ協会と共催)(2) 日本語ボランティア養成講座<ol style="list-style-type: none">① 日本語ボランティア レベルアップ講座② 初級日本語講師養成講座(3) 多国語講座(4) 地域ふれあい事業(5) 国際交流ボランティア4 広報事業部会<ol style="list-style-type: none">(1) 会報紙ニューズレターの発行(2) 協会ホームページの運営(3) 市民協働×男女共同フェスティバルへの出展5 その他<ol style="list-style-type: none">(1) 土浦写真コンテスト後援(2) 外国人支援活動(3) ホームステイ受入



副会長
飯田 芳弘



副会長
青木 規幸

この度、当協会は平成4年2月に設立されてから、設立30周年を迎えることとなりました。

本市には約4,400人を超える外国人が居住されております。本市の国際化は益々進み、国際協調が何より大切になって参りました。この様な中、協会の役割が市民の皆様理解されるよう、更なる努力が必要であると考えております。

令和元年10月25日アメリカ合衆国パロアルト市と土浦市の姉妹都市締結10周年記念祝賀会にてエリック・フィルセス、中川清両市長との間で共同宣言書署名が行われました。ところが、残念なことに令和2年2月頃より新型コロナウイルスの蔓延により協会の各種事業及びイベントが中止せざるを得なくなりました。一日も早く協会本来の活動を再開できるよう祈っております。

私事ですが、姉妹都市友好都市交流事業部会に所属しておりましたので中学生交換交流事業、かすみがうらマラソン招待選手対応などに思い出があります。特に中学生交流事業ですが、出発前の結団式の時の学生たちはどこか不安げな一面を感じたのですが、帰国後の報告会での様子は自信に満ち、こんなにも成長してきたのかと毎回感心させられます。中学生にとって大変有意義な事業と考えておりますので、交換交流の再開を待ち望んでおります。

最後になりますが、当協会の活動を支えてくださるすべての皆様へ感謝を申し上げます、私の挨拶と代えさせていただきます。

いまだ新型コロナウイルス感染症は市民の健康や生活に甚大な影響を及ぼしております。終息の目途がなかなか立たず、もう2年もの歳月が流れてようとしています。そのため出合いや交流の場が減少し、土浦市国際交流協会の主要な事業の一つである中学生交換交流事業は3年続けて開催中止となっております。子ども達にとっては一生一度のチャンスなのでとても残念に思います。いつか必ず感染症も終息し、これまで先輩方が築きあげてきた事業をこれまで通りに再開し、多文化共生の地域づくりや姉妹都市および友好都市を含めた国際交流事業などができると信じております。

土浦市国際交流協会設立30周年を節目とし新たな発展に向けて、市民の国際交流や国際理解の関心を高め、時代のニーズを捉えた地域の国際化を推進できるよう活動してまいり所存であります。今後とも土浦市国際交流協会への変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 国際交流事業部会



部会長
岡野 良男

縁あって十数年前に会員になり、令和3年度に部会長を拝命致しました。前部会長の竹内裕様におかれましては平成4年の協会の立ち上げ当時から現在も在籍され、その間様々な活動を実施され、現在の国際交流事業部会を形作られたことに対し深甚なる感謝と敬意を表します。

現在、国際交流事業部会といたしましては、在住外国人や日本語教室の生徒、JICA 筑波研修員等の皆様と日本人が“世界なかよし連”というチームで土浦キララまつりの七夕おどりコンテストに参加する「外国人によるキララまつりの七夕踊り参加」・JICA 筑波センターの施設を見学し、外国人研修員とのディスカッションや夕食交流を行う「JICA 筑波センター訪問」・市内の中高生と在住外国人が外国料理づくり等を通じて交流を行う「中高生と外国人との食文化交流」・青年海外協力隊やシニアボランティアとして海外で活躍してこられた方々を講師に迎え、現地での協力活動や体験をお聞きする「海外ボランティア活動報告会」を柱に活動をおこなっております。

日本を取り巻く国際情勢も日毎に変化する中、現在はコロナ禍という変化も起きています。

今後の国際交流事業も周りの環境に柔軟に適應しながら活動をおこなってまいります。

■ 姉妹都市及び友好都市交流事業部会



部会長
佐野 智次

土浦市国際交流協会が設立30周年を迎える事となり、その年の部会長として活動できます事を大変に光栄と思います。

姉妹都市・友好都市交流事業部会の主な事業は、アメリカ合衆国カルフォルニア州パロアルト市との中学生交換交流事業と、かすみがうらマラソン大会の招待選手の受け入れとなります。現在、コロナ禍の中、その感染防止の為に、今年度の両事業は残念ながら中止となりましたが、早い時期でのコロナ禍の終息で、来年度こそは再び開催が出来ればと願っております。

そして、これらの事業がこの先の将来も継続していく事で、土浦市の国際交流が更に充実し発展される事が期待されますので、私としても微力ですが、精一杯頑張りたいと思います。

最後になりますが、当協会に対しましてご協力を頂きます会員と市民の皆様方に感謝を申し上げ、また、土浦市国際交流協会が設立30周年を期に更に発展します事を心からご祈念申し上げ、私のご挨拶に代えさせていただきます。

■多文化共生事業部会



部会長
田村 尚子

現在土浦には 67 ヶ国 4,453 人の外国籍の方が住んでおられます。多文化共生事業部会では、その方々が地域にとけこみ、安全、安心に生活していけるよう種々イベントや講座を計画、実施しております。

① 地域ふれあい事業

食文化交流と出前講座を行います。母国の料理と一緒に調理・試食をしながら、それぞれの国のお話を伺います。また出前講座ではゴミの出し方や救急救命法や災害時の避難方法を学び、日本文化についてはお茶、お花、折紙などを楽しまします。

② 多国語講座

市内各地区公民館の語学サークルとは異にし、当協会ではベトナム語、インドネシア語、タイ語等なかなか学べない言語に注目して開講しております。

③ 日本語教師養成講座

日本語を学びたいという外国人に対しての指導方法を学びます。

④ 日本語教室(ユネスコ共催)

10 ヶ国、40 名程が受講しています。ひらがな・カタカナの読み書き等を学ぶ超初心者から新聞を読むことが出来る上級者まで、レベル別に 10～12 クラスに分かれて、学んでいます。

⑤ その他

土浦では令和 2 年 3 月に土浦市多文化共生推進プラン(後期計画)を策定し、各種施策に取り組んでおりますが、国際交流協会でも部会を挙げて、地域での生活に困ることがないようにお手伝いしていきます。

■広報部会



部会長
照屋 孝明

2020 年 5 月より前任者の青木規幸部会長から、広報部会部会長のバトンを受け継ぎました。

広報部会の最も重要な役割は、協会の活動を記録することと、土浦市の内外の方々に当協会について知っていただき、一人でも多くの方に活動に参加していただくことです。

その 1 つ目は、毎年 2 回会員の皆様向けに発送する広報紙「The Ties of Friendship」の発行です。初めて部会長として担当した 46 号の際にはすでに新型コロナウイルスの感染拡大により、多くのイベント等が中止や縮小開催となっておりますので、この 2 年間紙面作成には大変苦労しました。

2 つ目は、協会のホームページの管理運営を行い、ネットでの情報発信を行っております。

3 つ目は男女共同参画×市民協働フェスティバルのポスターセッションに参加し、当協会の活動を PR します。

そして、この設立 30 周年記念事業では、この記念誌作成とイオンモール土浦での「30 年のあゆみ」パネル展の開催を担当させていただきました。パネル展では、ご来場の皆様に協会の活動をご紹介させていただきました。

新型コロナの感染拡大が落ち着き、土浦市国際交流協会の活動が元に戻った暁には、魅力的な情報発信をすることによって、土浦市民の国際交流推進に役立ちたいと思っております。

30年のあゆみ

1991年度
(平成3年度)

2.29【協会発足】

1992年度
(平成4年度)

土浦中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり
比較文化研究ゼミナール
地球市民ふれあいセミナー
ミニトーク(海外体験談)
土浦市国際交流のつどい
マラソン選手接待(ドイツ選手)

1993年度
(平成5年度)

役員会・総会
土浦中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり参加 ※雨天中止
多国語講座
土浦市民ふれあいサマーキャンプ in NIKKO
比較文化研究ゼミナール
地球市民ふれあいセミナー
絵画・写真送付(フリードリッヒスハーフェン市)
マラソン選手接待(ドイツ選手)

1994年度
(平成6年度)

役員会・総会
多国語講座
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市ふれあいサマーキャンプ in NIKKO
比較文化研究ゼミナール
地球市民ふれあいセミナー
絵画・写真送付(フリードリッヒスハーフェン市)
マラソン選手接待(ドイツ選手)

フリードリッヒスハーフェン市
と友好都市締結

1995年度
(平成7年度)

役員会・総会
ディズニーランド日帰りツアー
多国語講座
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市ふれあいサマーキャンプ in NIKKO '95
比較文化研究ゼミナール
地球市民ふれあいセミナー
絵画・写真送付(フリードリッヒスハーフェン市)

1996 年度
(平成 8 年度)

役員会・総会
マラソン選手接待(ドイツ選手)
多国語講座
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市ふれあいサマーキャンプ in NIKKO '96
比較文化研究ゼミナール
地球市民ふれあいセミナー
会報紙(臨時)発行
絵画・写真送付(フリードリッヒスハーフェン市)

1997 年度
(平成 9 年度)

役員会・総会
地球市民ふれあいセミナー
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
お花見会、お月見会、もちつき大会
キララまつり七夕おどり参加
土浦国際ふれあいサマーキャンプ
会報紙『The Ties of Friendship』創刊(第1・2号)
多国語講座

1998 年度
(平成10年度)

お花見会
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第3・4号)
地球市民ふれあいセミナー
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり参加
多国語講座
土浦国際ふれあいデイキャンプ
外国人生活ガイドブック発行

1999 年度
(平成11年度)

日本語教室開講(土浦ユネスコ協会と共催 ※以下同じ)
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第5・6号)
国際交流ボランティアの募集開始
地球市民ふれあいセミナー・海外研修(マレーシア)
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
キララまつり七夕おどり参加
友好都市 PR・ツェッペリン飛行船飛来 70 周年記念展示
友好都市フリードリッヒスハーフェン市からの招待者派遣
多国語講座
土浦国際ふれあいデイキャンプ
国際交流ボランティア・ホームステイ
外国人生活ガイドブック(タイ語)

2000 年度
(平成12年度)

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第7・8号)
友好都市市民訪問団
キララまつり七夕おどり参加
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
地球市民ふれあいセミナー・海外研修(カンボジア)
土浦国際ふれあいデイキャンプ
多国語講座
国際交流ボランティア・ホームステイ
外国人生活ガイドブック(英語・ポルトガル語)

2001 年度
(平成13年度)

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第9号)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
地球市民ふれあいセミナー・海外研修(ベトナム)
土浦国際ふれあいデイキャンプ
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座
土浦市国際交流協会設立 10 周年記念事業
外国人生活ガイドブック(スペイン語)

2002 年度
(平成14年度)

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会、総会、会報紙(第 10・11 号)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
2002 土浦発!! 地球市民セミナー・海外研修(韓国)
土浦国際交流デイキャンプ
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座
外国人生活ガイドブック(中国語)

2003 年度
(平成15年度)

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第 12・13 号)
キララまつり七夕おどり参加
2003 土浦発!! 地球市民セミナー・海外研修(マレーシア)
土浦国際交流デイキャンプ 2003
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座
外国人生活ガイドブック(ハングル版)

2004 年度
(平成16年度)



多国語講座(韓国語)

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第14・15号)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
2004 土浦発!! 地球市民セミナー・海外研修(中国)
土浦国際交流デイキャンプ 2004
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座

2005 年度
(平成17年度)



キララまつり七夕おどり

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第16・17号)
キララまつり七夕おどり参加
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
2005 土浦発!! 地球市民セミナー・海外研修(ベトナム)
土浦国際交流デイキャンプ 2005
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座

2006 年度
(平成18年度)



中学生海外派遣事業

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第18・19号)
キララまつり七夕おどり参加
中学生交換交流事業(※以下 パロアルト市)
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
土浦国際交流デイキャンプ 2006
異文化交流事業講演会(2回)
土浦カレーフェスティバル参加
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座

2007 年度
(平成19年度)



初心者向け日本語
ボランティア養成講座

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
多国語講座
役員会・総会、会報紙(第20・21号)
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
土浦市中学生海外派遣事業(シドニー)
異文化交流事業講演会(2回)
土浦国際交流デイキャンプ 2007
カンボジア視察研修
初心者向け日本語ボランティア養成講座
土浦カレーフェスティバル参加
国際交流ボランティア・ホームステイ

2008 年度
(平成20年度)



地域ふれあい事業

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第 22・23 号)
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
高校生と在日外国人との食文化交流
土浦カレーフェスティバル参加
異文化交流事業講演会(2回)
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座
初心者向け日本語ボランティア養成講座
地域ふれあい事業
フリードリッヒスハーフェン市中学生とメール交換(都和中)

2009 年度
(平成21年度)



中学生交換交流事業(受入)

パロアルト市と
姉妹都市締結

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、会報紙(第 24・25 号)
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
日本語ボランティア養成講座ステップアップ編
異文化交流事業講演会
土浦カレーフェスティバル参加
初心者向け日本語ボランティア養成講座
中・高校生と在日外国人との食文化交流
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
国際交流ボランティア・ホームステイ
多国語講座
地域ふれあい事業

2010 年度
(平成22年度)



海外ボランティア活動報告会

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)
役員会・総会、部会制開始、会報紙(第 26・27 号)
キララまつり七夕おどり参加
中学生交換交流事業 ※受入のみ
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
「日本/土浦まつり」への市民訪問団派遣
初心者向け日本語ボランティア養成講座
多国語講座
土浦カレーフェスティバル参加
中・高校生と在日外国人との食文化交流
海外ボランティア活動報告会
国際交流ボランティア・ホームステイ
地域ふれあい事業

2011 年度
(平成23年度)



パロアルト市中学生からの手紙

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手)※中止
パロアルト市とフリードリッヒスハーフェン市より寄付
役員会・総会、会報紙(第 28・29 号)
キララまつり七夕おどり参加
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初心者向け・レベルアップ編)
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
土浦カレーフェスティバル参加
中・高校生と在日外国人との食文化交流
カンボジア視察研修・参加者事前研修
海外ボランティア活動報告会
国際交流ボランティア・ホームステイ
地域ふれあい事業
土浦市国際交流協会設立 20 周年記念事業
中学生交換交流事業 ※派遣のみ

2012 年度
(平成24年度)



ベトナム視察研修

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手・アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 30・31 号)
キララまつり七夕おどり参加
中学生交換交流事業
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初心者向け・レベルアップ編)
ベトナム視察研修
土浦カレーフェスティバル参加
海外ボランティア活動報告会
中・高校生と在日外国人との食文化交流
国際交流ボランティア・ホームステイ
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」パネルトーク参加
地域ふれあい事業

2013 年度
(平成25年度)



土浦カレーフェスティバル

日本語教室
マラソン選手接待(アメリカ選手)※ドイツ選手不参加
役員会・総会、会報紙(第 32・33 号)
キララまつり七夕おどり参加
中学生交換交流事業
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初心者向け・レベルアップ編)
土浦カレーフェスティバル参加
中・高校生と外国人との食文化交流
国際交流ボランティア・ホームステイ
海外ボランティア活動報告会
地域ふれあい事業

2014 年度
(平成26年度)



カンボジア大使館講演会

ホームページ運営開始
日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手・アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 34・35 号)
カンボジア大使館講演会
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
「日本/土浦まつり」における市民訪問団派遣
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
土浦カレーフェスティバル参加
中・高校生と外国人との食文化交流
国際交流ボランティア・ホームステイ
海外ボランティア活動報告会
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」ポスターセッション参加
地域ふれあい事業

2015 年度
(平成27年度)



中高生と外国人との食文化交流

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手・アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 36・37 号)
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
外国人案内サポートボランティア設置
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
土浦カレーフェスティバル
中・高校生と外国人との食文化交流
国際交流ボランティア・ホームステイ
海外ボランティア活動報告会
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」ポスターセッション参加
地域ふれあい事業

2016 年度
(平成28年度)



マラソン選手対応

日本語教室
マラソン選手接待(ドイツ選手・アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 38・39 号)
海外ボランティア活動報告会
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
土浦カレーフェスティバル参加
中・高校生と外国人との食文化交流
国際交流ボランティア・ホームステイ
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」ポスターセッション参加
地域ふれあい事業
フリードリッヒスハーフェン市の中学校と学校間ホームページ交流
(土浦一中)

2017 年度
(平成29年度)



日本語ボランティア
養成講座(レベルアップ編)

日本語教室
マラソン選手接待(アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 40・41 号)
ベトナム大使館講演会
中学生交換交流事業
キララまつり七夕おどり参加
JICA 筑波訪問と国際交流の集い(一般・高校生)
多国語講座
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
土浦カレーフェスティバル参加
中・高校生と外国人との食文化交流
国際交流ボランティア・ホームステイ
海外ボランティア活動報告会
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」ポスターセッション参加
地域ふれあい事業

2018 年度
(平成30年度)



学校支援ボランティア養成講座

日本語教室
マラソン選手接待(アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 42・43 号)
キララまつり七夕おどり参加
中学生交換交流事業
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
日本語ボランティア養成講座(レベルアップ編)
学校支援ボランティア養成講座
多国語講座
土浦カレーフェスティバル
中・高校生と外国人との食文化交流
海外ボランティア活動報告会
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」ポスターセッション参加
地域ふれあい事業

2019 年度
(令和元年度)



姉妹都市締結 10 周年記念事業

日本語教室
マラソン選手接待(アメリカ選手)
役員会・総会、会報紙(第 44・45 号)
フィリピン大使館講演会
中学生交換交流事業 ※受入のみ
キララまつり七夕おどり参加
JICA 筑波訪問と国際交流の集い
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
多国語講座
姉妹都市締結 10 周年記念事業
中・高校生と外国人との食文化交流
海外ボランティア活動報告会
「みんなで協働のまちづくりシンポジウム」ポスターセッション参加
地域ふれあい事業

2020 年度
(令和2年度)



外国人支援活動

日本語教室
役員会・総会(書面総会)、会報紙(第 46・47 号)
外国人支援活動
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
多国語講座
海外ボランティア活動報告会

2021 年度
(令和3年度)



JICA 筑波訪問

役員会・総会、会報紙(第 48 号)
外国人の子供たちへの教育支援セミナー(Youtube 配信)
JICA 筑波センター訪問プログラム
日本語ボランティア養成講座(初級・レベルアップ編)
多国語講座
外国人支援活動
高校生と留学生とのオンライン交流
海外ボランティア活動報告会



「30 年のあゆみ」パネル展

土浦市国際交流協会設立 30 周年記念事業
・記念式典:新型コロナウイルスの感染拡大により中止
・記念講演会:令和4年度にて開催予定
・「30年のあゆみ」パネル展:3月1日～8日開催
・土浦市国際交流協会設立30周年記念誌発行

【功労者表彰】

30 年にあたり協会の発展に功績のあった方2名の方を表彰しました。

○瀬古澤 拡(せこざわ ひろし)氏

氏は、土浦市国際交流協会会長を平成 18 年から 29 年まで務められました。会長在任中には、パロアルト市との中学生交換交流事業の継続、姉妹都市締結、2度にわたる土浦/日本まつりへの市民団派遣に協力するなど、姉妹都市交流に貢献されました。またその広い人脈とオーガナイザーとしての手腕を発揮され、多くの賛同者を獲得し、基盤の強化を図るとともに、当協会の設立 20 周年記念事業では先頭にたって開催を成功に導くなど、当協会の発展に多大なる貢献をされました。

○中島 敬子(なかじま けいこ)氏

氏は、パロアルト市において平成 15～26 年まで現地の中学校で、日本語教師を務め、中学生交換交流を担当し、現在の交流の礎を築くとともに、平成 21 年の両市の姉妹都市締結にも多大なる尽力をされました。姉妹都市を結んだ後は、現地の国際交流団体ネイバーズ・アブロードの副会長も務め、平成 22・26 年にはパロアルト市にて「日本/土浦まつり」を2回にわたって開催し、土浦から訪問団を迎えるなど、姉妹都市交流に尽力され、その発展に多大な貢献をされました。

土浦市国際交流協会設立30周年に
あたり



竹内 裕

土浦市国際交流協会 30周年、おめでとうございます。

私は平成4年に国際交流協会を設立する準備会の中から参加し、正式に発足した時には、まだ若かったこともあり、さあ頑張ろうという感動がありました。

地球市民ふれあいセミナー副会長として、諸先輩達と、さまざまな事業を実施するにあたり、他市の先進事業や社会の動きなどを参考に幾つかの諸事業を実施してきました。1年間に平均8事業くらい行っていましたので大変忙しく、また活気もありました。

4年目からはアジアを知ろうと、アジア各国で日本人が行っている途上国支援事業の視察を中心とした海外研修を企画し、広報紙で募集し市民の方にもご参加いただきました。ベトナム・カンボジア・マレーシア・タイ・中国・韓国など、観光ツアーでは行かないようなところで、日本人が活動している現場へ行き、多くのことを教えてもらいました。

もう一つはJICA筑波との協力連携活動です。この事業はJICA筑波が近隣ということもあり数多くの連携活動を行ってきました。①JICA筑波施設訪問の実施②研修員との懇談会の実施③JICA出前講座(報告会など)の開催④研修員を対象としたキララまつり七夕おどりへの参加要請⑤その他時々に応じた取り組みを積極的に行ってきました。

あらためて、私が国際交流協会に参加した平成4年頃は、土浦、阿見など県南地域はリトルバンコクと呼ばれ、不法就労による各種の社会事件が起きていました。当然取り締まりが強化され、牛久の東日本入国管理センターに不法就労者は収容されていきました。私は、このようなことも国際交流を進めていく上では大事な現実ということで何回か足を運び、不法就労問題と収容後の対応など、関係者を講師に招いて勉強しました。この入管問題、不法就労問題は、今でも更に継続して議論されていますし、私が協会に参加している理由の1つでもあります。今後も、私はこのことについて関心をもって対応したいと思っています。土浦市も外国人登録者が約4,400名を越えています。それぞれの生活地域での諸課題もあります。国際交流も以前と違って多面的に考え、地域と一体となって進めていかなければならない時代になりました。

私は、国際交流から国際貢献が具体化する協会を目標に活動してきました。今後も役員の方や皆さまと一緒に取りくんでいきたいと思っています。

(前土浦市国際交流協会国際交流事業部会部会長)

三十年を省みて

市毛 知恵子



土浦市国際交流協会が30周年を迎えることができ、よろこばしく思います。

私は土浦市文化財愛護の会（ツエッペリン伯号の調査研究部会・現在は休会）の一人として、友好都市でありますドイツ、フリードリッヒスハーフェン市から「かすみがうらマラソン」に招待した選手と市長と引率者10余名の人達に餅をついてあげたり、お茶を点ててあげたりと心の接待をしてきました。十年近く同じドイツの女性の方も来日し、お土産にかすみ人形を作り、差しあげて、友達になりました。

その後、新治と土浦が合併し、アメリカのパロアルト市が姉妹都市となり、招待選手も友好都市ドイツ・フリードリッヒスハーフェン市の選手から、アメリカのパロアルト市の選手となりました。また人数も2名位になりました。選手はホテルマロウドに宿泊し、私は、朝迎えに行き、会場までお供して、出発を見送り、選手が戻られるまで会場待ち、選手をホテルまで送り、お土産を渡し別れました。

またキララまつり七夕おどりに、百名近い人が参加するため前日準備にあたりました。腰ひもにするさらしを切って揃えたり、ゆかたと帯を男女別に分けたりしました。おどり当日は、着付けの手伝いをし、おどりが終わったらクリーニングに出す着物などの枚数を確認、参加した外国人の方々をお見送りし帰宅しました。このキララおどりに参加した世界なかよし連は、にぎやかにおどります。人気があり、特別賞を受賞したこともありました。

土浦の日には、カレーフェスティバルでの国際交流協会の周知とカレーの販売にも参加しました。ごはんの盛りつけは熱く大変でしたが、カレーを入れる人はお鍋からなのでもっと大変そうでした。

中学生派遣事業の最初の頃は、ホームステイの中学生達が出発する前に土産品などをあげていました。当所の派遣先はオーストラリアのレッドクリフシティと記憶しています。

30年間会員の皆様に支えられ活動できましたこと感謝いたします。

会の発展と皆様のご健康を祈念いたします。

（土浦市国際交流協会監事）

土浦市での日本語教室

吉田 俊夫



私たちは、日本語を母語としない人達のために、日本語教室を毎週水曜日午後1時30分からと、木曜日夜7時から開講しています。授業は、約2時間程度です。日本語を教える先生方は、全て日本人ボランティアです。日本語の授業だけではなく、月1回茶話会を開きます。この茶話会では、参加者はそれぞれの母国語で思い思いに楽しそうに話をしてくれ、受講者と講師は双方向で情報交換をします。

この教室の方針は「来る者拒まず、去る者追わず」です。それは、この日本語教室が土浦ユネスコ協会と土浦市国際交流協会の共催であり、当初のユネスコ協会の方針を継承しているためです。受講者の出身地域・日本語能力は、問いません。日本語能力のレベルでクラス分けをして、授業を進めています。受講者のレベルは、初歩中の初歩の方から日本語能力試験1級受験者にまで及び、学びたい方には門戸を開き、幅広く受け入れています。

私たちは、縁あってはるばる土浦に来られた方々と交流を深め、日本の思い出をたくさん作ってもらい、地域にもなじんでもらえるように取り組んでいます。

例えば、日本語の授業ばかりではなく、レクリエーションを講師と一緒に楽しく行っていることがあげられます。レクリエーションは、通常春と秋に開催しています。2年に1回は、近場の温泉に1泊旅行を行います。また毎年8月の土浦キララまつり七夕おどりには、おそろいの浴衣を着て参加しています。通常の教室においても、普段の生活で困ったことなどの相談を受け、受講者の心の拠り所となるように努めています。しかしレクリエーションなどでは、通常の教室では学べない、いろいろなことを楽しみながら学ぶことができます。日本文化にも触れることもできます。そのため、今後も各国の文化・習慣を互いに学べるレクリエーションを計画したいと考えています。

令和2・3年度とコロナ禍のために思うように開講できず苦慮していますが、桜の咲く頃には例年通り開講できることを一同願っています。

(土浦ユネスコ協会日本語教室委員会副委員長)

土浦市国際交流協会

設立30周年に寄せて

中島 敬子



土浦市国際交流協会の設立30周年に当たり心よりお祝いを申し上げます。また、この度は功労者として表彰していただくことになり、厚く御礼申し上げます。

2001年から2014年に退職するまで足掛け14年間にわたり交換交流事業のお世話をさせていただきました。最初は「アメリカの子供達に日本を見せたい!」という気持ちだけでしたが、この経験は私の掛け替えのない大きな財産になりました。現在はコロナの影響で2020年から2022年と交流ができない状況にありますが、中止になった事が以前にもありました。1回目は2001年9月11日の”アメリカ同時多発テロ事件”により、2002年の交流が中止となったとき、そして2回目は2011年3月11日の”東日本大震災”の発生で、翌12日にパロアルトに到着のはずの生徒さん達が突然に来れなくなったときです。世の中には辛い出来事も多く、このような年に当たってしまった生徒さん達にも、いつかきっとパロアルトを訪れる機会があることを願っています。

カリフォルニア州は日本が入ってしまう以上の広さがあります。州は58のカウンティ(County)に分けて、各地域のCounty Officeが州の仕事をしています。パロアルト市は近隣の市と共に”County of Santa Clara”に属しています。パロアルトの学校区(PAUSD=Palo Alto Unified School District)には、合わせて19の小中高の公立校がありますが、パロアルト市立ではなくて、County Board of Educationに属した州立の学校です。従って、教育委員会(School Board)も同じです。小(K=Kindergarten-6年)中(2年)高(4年)の12年間は州の義務教育となっていますので、テストなしで進学でき、無料です。パロアルト市議会は市長を含め7人の議員(City Council Members)で構成されています。市長は市民による選挙ではなく、議員同士で選び、任期は1年です。市長以外の市議は、普段は自分の仕事をし、月に一度の議会に出席します。姉妹都市機構のネイバーズ(Neighbors Abroad)は、市に認可された機関ではありませんが、市からの金銭的、人事的な援助は全くありません。

パロアルト市を包む環境は、土浦市のそれとは大きな違いがあり、ましてや、海を隔てた人の考え方、ものの捉え方にはもっと大きな違いがあります。両市間を行き来して、色々な事をたくさん学ばさせていただきました。そして、この繋がりが回数を重ねる毎に理解を深め合い、素晴らしい友好関係が築き上げられている事を、身をもって感じております。パロアルトの生徒達に、毎年数多くの素晴らしい日本文化の体験をさせていただき、土浦市、国際交流協会には心から御礼申し上げます。

交流は新治村から始まり、合併後は土浦市の事業となり、2009年に姉妹都市となってからはマラソン大会にも参加させて頂いています。その絆はより一層深く永く続くことを願ってやみません。土浦市国際交流協会の設立30周年をお祝いし、厚く感謝いたします。

(元パロアルト市日本語教師・前ネイバーズアブロード副会長)

土浦市国際交流協会設立 30 周年

記念に寄せて



ジェニファー・ブエンロストロ

It is with great pleasure that I am able to send this letter of congratulations to the Tsuchiura International Association. Since 2009, Palo Alto has treasured our sister city Tsuchiura. We send heartfelt congratulations and thanks to the Association and all of the leaders, staff workers and families in Tsuchiura that have worked diligently over the years to make our relationship and exchange program a great success!

Through the vision of Keiko Nakajima, our retired teacher and leader, and the Founder of the wonderful exchange program, the lives of our Palo Alto and Tsuchiura middle school exchange students and their families are transformed each year. Since its inception in 2009 through our most recent in-person exchange in 2019, the program has deeply touched and positively impacted 352 students and their families. It is my goal to ensure the future continued success of this program with the planning of our next in person exchange in 2023!

Further, Palo Alto is committed to increasing the ways in which we can collaborate with Tsuchiura beyond the Middle school Exchange program. We are hopeful to share future ideas and projects with each other in the areas of sustainability, tourism, and climate change.

On behalf of Neighbors Abroad and the City of Palo Alto, I heartily congratulate the Tsuchiura International Association on its 30 years of sharing Japanese culture with the world, and promoting a vibrant exchange with the City of Palo Alto!

【和訳】

土浦市国際交流協会へのお祝いの言葉をお贈りするのは大変に喜ばしいことです。

2009年以來、パロアルト市は姉妹都市である土浦市を大切にしていまいりました。貴協会をはじめ、長きにわたり私たちの関係や交換交流に尽力し、素晴らしい成果に結びつけてくださった土浦市幹部、職員、そしてご家族の皆様にご心からのお祝いと感謝を申し上げます。

元教師であり、かつ事業のリーダーであり、この素晴らしい交換交流を創設した中島敬子氏のビジョンを通じて、パロアルト、土浦両市の中学生交換交流に参加する学生やその家族は年々、その活動の形を変えていまいりました。

2009年に開始され、2019年の直近までの直接交流を通して、この事業は352人の学生とその家族に深い感動とほっきりとした効果を与えていまいりました。次の2023年に対面での交流を計画することで、将来を見据え、継続してこの事業の成功を確固たるものにすることが私の目標であります。

さらに、パロアルト市は土浦市と中学生交換交流を超えた共同事業を増やしたいと考えております。将来的には持続可能性、ツーリズム、気候変動など分野における未来のアイデアやプロジェクトを共有していけたらと思います。

ネイバーズアブロードおよびパロアルト市を代表いたしまして、土浦市国際交流協会が、日本文化を世界と共有し、当市と活気あふれる交流を推進しながら、節目となる30周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

(ネイバーズアブロード副会長)

座禅と茶道を通して

三ツ井美智



新治村時代に始められたパロアルト市との交流は、土浦市と合併してからも受け継がれ、今日に至っています。向上庵での体験は座禅と茶道です。

最初の頃は来日した生徒達だけの来寺でした。その後土浦の生徒も共に座禅と茶道の体験をするようになり、本堂内が手狭に感じられる程でした。「チャキン、チンチン」柝と鐘の座禅の合図に堂内は静寂。お線香1本分坐ると休憩しました坐ります。体の大きな子が多く「結跏趺坐」が大変な様子でしたが、夫々に努力し坐りました。終わった後の賑やかさは特別です。

日本文化の集大成と言われる茶道は言葉の壁もあり、思う様に伝えられないのが残念です。或る年茶席で「僕がお正客をします」と手を挙げた生徒がありました。その子の家族がお茶を習っていて時々お茶をするとの事、素晴らしい家族だと思いました。また「ワンダフル、温かみを感じられる」と障子を通す光に感動した付き添いの方もいらっしゃいました。

姉妹都市となったパロアルトを市関係者と訪問する機会がありました。看板や自動販売機が無く、家々にはひとかかえも有るような巨木が何本もあり、「道路に出た枝だけを切る」との事、自然豊かなきれいな街でした。「土浦まつり」の折、短時間でしたが、座禅と茶道体験コーナーを受け持ちました。現地の女性何人が和服姿で茶席のお手伝いをして下さり、感激しました。

パロアルト市と新治村・土浦市との交流に体験の場を提供できた事、そして来日時に引率して来られた中島先生、市訪問の際ホームステイをさせて頂いた岸本様との御縁は今も続いて居ますが、一期一会と云われる、忘れられない人々との大切な出会いは私の財産となっています。

コロナ禍が終息し、交流協会が益々発展される事を祈念申し上げます。合掌

(向上庵住職)

土浦国際交流協会 30 周年記念に 向けて

清藤 恵子



この記事を書くに当り、この 30 年間のイベントを振り返ってみると様々なことが思い出され、しばし感慨に浸りました。発足する前から国際交流関係のイベントには関わってきましたが、どんどんバージョンアップされ土浦も在日外国人の方々にとっては大分住み易くなっていると思います。私の心に強く印象付けられているイベントを2つご紹介したいと思います。

まずは日光から始まった土浦国際ふれあいサマーキャンプ。お揃いの T シャツに「ん、これだ」の名称を刷り込み、下見に行ったり、散策ルート歩いたり、雨天の場合のスケジュール作りから、宗教上食べられない食材のある外国人を配慮した食事のメニュー作りまで、気の休まることはありませんでした。

その中でも今思い出すのは、お国柄の出た、キャンプファイヤーの時のスタンツや、食事作りです。火起こしから食事が出来上がるまで熱い火の傍で手伝ってくれたバングラデシュの男性、賑やかなゲームをやって皆を楽しませてくれたアメリカ人。陽気に騒ぐドイツ人等に交じって、夏休み中勉強した自分へのご褒美に参加したという、受験生や、殻に閉じこもった自分を打ち破るために参加したフリーターの人など。一泊の旅だったにも関わらず、皆帰るころには昔からの友人のように名残を惜しんでいました。一泊キャンプは「一つ釜の飯」を食べることの良さを味わった心に残るイベントでした。

2つ目はキララまつり七夕おどりパレードです。毎年 8 月の第一土曜日に行われるキララまつりの七夕おどりのパレードに土浦在住の外国人、日本語教室の先生や生徒、そして当日のみ加わる国際協力事業団 (JICA) つくば国際センターのバス1台分 (30 人弱) の外国人研修生が集まって「世界なかよし連」ができ上がります。総勢が 100 人を超えてしまうこともあり、最近では 70 名位に減らしています。JICA のメンバーは発展途上国の陽気な面々が多く、特にアフリカ系は音楽を聴いただけで勝手に踊りだしますが、草履が痛くて嫌がる人も毎年います。そのような時は靴に履き替えます。「アーソレソレ！ ヤッサヤッサ！」と皆で叫びながら体を動かすと圧巻です。お陰でわずか 2 時間足らずの練習でも何とか「サマ」になって、グループで何度も特別賞を頂いています。彼らも道路に出ている屋台が珍しく、順番待ちの時に熱心に写真を撮っていました。練習の合間に頂く夕食のおにぎりやオードブルもイスラム教の方々の中にはラマダンの期間は食べられないと持ち帰る人がいたり、丁度お祈りの時間になってしまうと仕切りで区切ってお祈りを始める人なども居て、私達も異文化に触れられました。キララまつりは何だか分からないけれど、友情と楽しい日本文化の一端に触れることができ良かったと、外国人の方から感想を頂いたこともあります。

コロナ禍で中々イベントができませんが、人と人との絆を深める対面でのイベントが復活することを祈っています。

(土浦市国際交流協会会員)

当協会の活動内容と
今後の展望について



小野澤 秀人

設立30周年おめでとうございます。私は平成15年入会以来、現在の多文化共生事業部会に所属しています。当初は地域ふれあい事業で、毎年秋に市内在住外国人家族や外国人技能実習生とのデイキャンプを楽しみました。朝から昼過ぎまで市内でウォークラリーを楽しみ、午後は青少年の家に移動してBBQやキャンプファイヤーをするなど日曜日一日を楽しく過ごす交流会でした。平成20年頃からは、お国自慢の料理の調理・会食をする料理交流と日常生活講習会（防災・ゴミの出し方・雇用保険等の出前講座）をセットにしたイベントとなり、駐車場係として参加しました。しかし、ここ2年は新型コロナウイルス感染症の発生のため、地域ふれあい事業を開催出来ていません。

また多国語講座にはポルトガル語・スペイン語・イタリア語・おもてなし英語・インドネシア語講座を楽しみました。特にポルトガル語講座修了生で同窓会「ブラジル大好き」を結成し、毎月2回日系3世ブラジル人講師を囲む会話教室を10年来続けています。講座終了後も学習・交流の場の継続はいいですね。

その他の事業部会では国際交流事業部会のJICA筑波訪問・国際交流の集い、JICA国際協力出前講座、キララまつり七夕おどりでは色々な国の方と話してお国自慢に触れました。特に課外研修の中国広州・桂林、ベトナム、ミャンマー訪問は、観光地巡りだけでなく、地元地方議員との意見交換会や福祉施設視察の方が私には思い出深く有意義な研修でした。

各部会活動は今後も継続が望ましいです。

私は現在市内在住高齢者を対象に介護予防健康体操シルバーリハビリ体操指導士としてボランティア活動を続けておりますが、これまで市内在住・就労外国人を対象に、健康体操の集いを一度だけ試みたことがあります。保健センターや医療機関の作業療法士や理学療法士と連携して、再度市内に新たな触れ合い・通いの場を作っていきたいという願いがあります。また、協会の事業運営は主催者と参加者が点と線で結ばれるだけでなく、面としての広がりを展開していく試みに力点を置いてほしいなと感じています。それにはまずコロナ禍が早急に終息して、各事業部会活動が速やかに展開されることを願っています。

（土浦市国際交流協会会員）

各種活動に参加して

宮本 いみ子



毎年春になると、「今年度はどのような活動に参加できるだろうか。」と期待に胸を膨らませています。ここ数年は、多国語講座、海外ボランティア活動報告会、日本語ボランティア養成講座等に参加しました。

まず、多国語講座では、中国語、ベトナム語、インドネシア語を学びました。「語学学習の第一歩は挨拶から。」と言われますが、講座は夕方からでしたので「こんばんは。」の言い方を最初に覚えました。例えばインドネシア語でしたら「Selamat malam.(スラマツ マラム)こんばんは。Apa kabar?(アパ カバル)お元気ですか？」で授業が始まり、「Terima kasih.(トゥリマ カスイヒ)ありがとうございました。」で終わるといったような風です。どの講座でも会話練習だけではなく、クイズやゲームをしたり、観光名所や名物料理、民族衣装や伝統芸能の紹介があったりと、楽しみながら、各国の歴史や文化をすることができました。遠い異国の地が、少しずつ身近に感じられるようになってきたのは嬉しいことでした。

また、海外ボランティア活動報告会では、毎回、様々な国で活躍された皆さんの貴重な体験を聞くことができ、とても勉強になりました。赴任地での活動について生き生きと語る姿からは、文化の多様性、価値観の違いを受け入れることが国際交流の原点であるという想いが伝わってきました。耳慣れない国名、国名は知っていても地図上のどこに位置するか定かでない国など、私にとって未知なる国はたくさんありますが、そのような国についても詳しく知ることができました。発表を聞いていると「えっ、車道に信号がない？なぜ？では、どうやって横断するの？」というように、次から次へと興味・関心が湧いてきます。報告会後は、新聞や雑誌にその国についての記事が載っていないかチェックしたり、インターネットで調べたりする習慣が付きました。報告会は、世界に目を向けるきっかけを作ってくれたような気がします。

そして、日本語ボランティア養成講座ですが、2回受講し、日本語が母語でない人たちに外国語として日本語を教えるという「日本語教育」について学びました。普段何気なく使っている日本語の難しさを痛感しました。

今後は、各種活動に参加して学んだことを、国際交流に生かせるよう努めていきたいと思えます。

(土浦市国際交流協会会員)

中学生交換交流事業に参加して

梁田 海斗



中学生交換交流事業に参加して、私は様々な体験をしました。当時、漠然と海外といったら「アメリカ」というようなイメージを抱いていた自分にとって、中学2年生の春に人生で初めてアメリカへ行ったことは、とても大きな財産となり、私の人生を大きく変えてくれました。

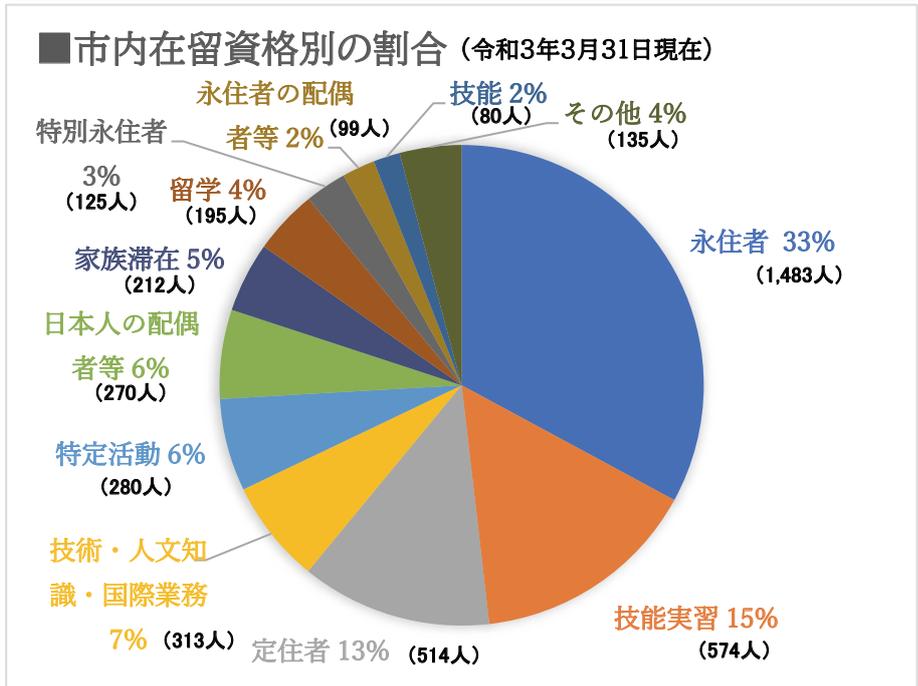
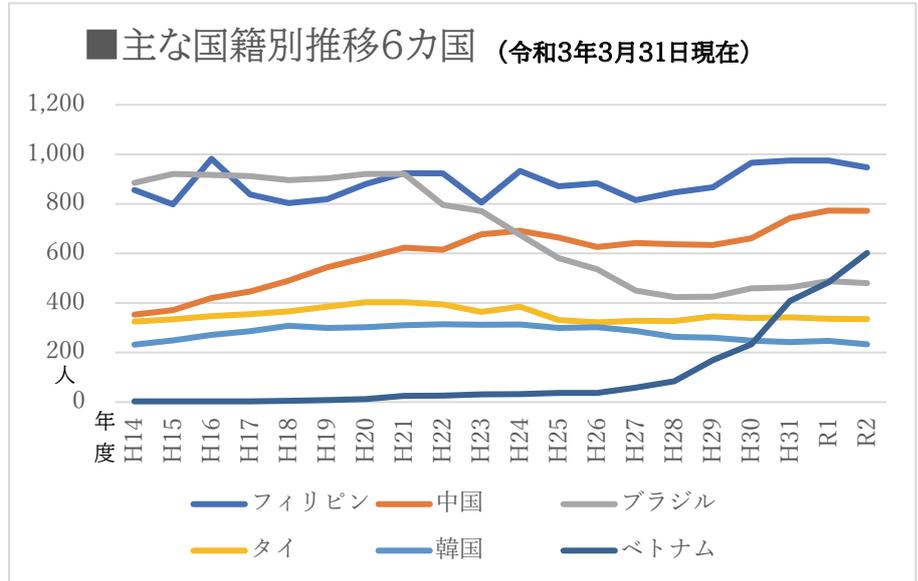
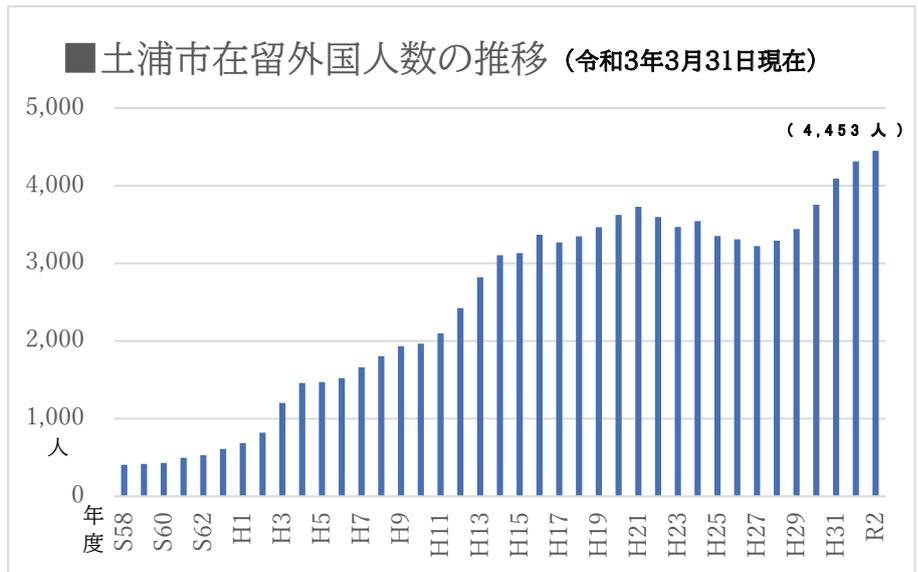
パロアルトでは、ホストファミリーやクラスメイトとなるべく自分から積極的に英語で話しかけました。正直、自分が伝えたいことをうまく英語で表現できなかつたり、相手がなんと言っていたのかわからなかつたりする場面がたくさんありました。しかし、たまに相手の言っていることが分かつたり、日本にはないリアクションの取り方だつたりとコミュニケーションを通じて多くのことを学ぶことができました。また、自分が今まで学んできた英語が伝わったときの喜びは今でも忘れられない思い出となり、英語が自分の強みに変わり、自信につながりました。そこからアメリカだけでなく様々な国の文化や言語により興味を持つようになり、大学時代は長期休みを狙って海外へ旅行することが趣味になりました。実際に中学生交換交流事業で訪れたヨセミテ国立公園の壮大な自然に感動し、大学3年生のときに私の弟とともに改めてヨセミテ国立公園へ行きました。約8年ぶりにみた絶景は2度目でもやはり圧倒されました。

この経験を通して私は海外の文化を直接肌で感じるだけでなく、自国の文化の良さも再認識することができました。もちろん海外の文化の良いところや尊敬できる部分はたくさんあります。しかし日本の文化にも素晴らしいものがあり、世界に誇ることができるのも事実です。そのためには、相手の文化を理解する必要がありますが、理解を深めるためには言語の壁が存在すると私は思っています。その考えもあり、私は英語の力を身につけたかったため、英語力を高めることのできる高校と大学に進学しました。そして今では私が中学時代に感じた、「英語が伝わったときの喜び」を伝えるために、中学校で英語の先生をしています。先生としてはまだまだですが、生徒には精一杯英語のおもしろさ、そして一つの言語が世界とつながることのできる素晴らしさを伝えていきたいです。英語に興味を持ち、将来的には私より素晴らしい経験を生徒に体験してもらおうことが今の私の夢です。

(平成25年度中学生交換交流事業派遣生)

■市内国籍別在留外国人数
(令和3年3月31日現在)

国 籍	R2
1 フィリピン	947
2 中国	772
3 ベトナム	602
4 ブラジル	480
5 タイ	335
6 韓国	233
7 スリランカ	163
8 インドネシア	149
9 ネパール	130
10 ベルー	99
11 台湾	90
12 インド	64
13 米国	40
14 ミャンマー	40
15 カンボジア	39
16 モンゴル	33
17 ポリビア	25
18 イラン	20
19 バングラデシュ	20
20 パキスタン	19
21 朝鮮	17
22 英国	11
23 カナダ	11
24 ロシア	10
25 エジプト	8
26 マレーシア	5
27 オーストラリア	5
28 ナイジェリア	5
29 スロバキア	5
30 ベネズエラ	4
31 ニュージーランド	4
32 コロンビア	4
33 ウズベキスタン	4
34 ケニア	3
35 フランス	3
36 アイルランド	3
37 アルゼンチン	3
38 コンゴ民主共和国	3
39 ガーナ	3
40 セネガル	3
41 国籍なし	3
42 ドイツ	2
43 ラオス	2
44 シンガポール	2
45 イタリア	2
46 スペイン	2
47 ルーマニア	2
48 ベルギー	2
49 ドミニカ共和国	2
50 ギニア	2
51 ジャマイカ	2
52 チリ	1
53 スウェーデン	1
54 メキシコ	1
55 ハンガリー	1
56 ポーランド	1
57 マルタ	1
58 バラグアイ	1
59 カメルーン	1
60 ニカラグア	1
61 ブルガリア	1
62 クロアチア	1
63 南アフリカ共和国	1
64 ヨルダン	1
65 チュニジア	1
66 ブータン	1
67 無国籍	1
合 計	4,453



■土浦市国際交流協会歴代役員名簿

役職	H5	H6	H7	H8
名誉会長	助川 弘之	助川 弘之	助川 弘之	助川 弘之
顧問	小野 治	吉田 信義	中島 政雄	沼田 義雄
	湯原 竹之助	湯原 竹之助	湯原 竹之助	神林 正雄
会長	武井 孝三	武井 孝三	武井 孝三	武井 孝三
副会長	小城 恵一	小城 恵一	小城 恵一	小城 恵一
	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡
	青木 利次	青木 利次	青木 利次	尾身 彰一

役職	H9	H10	H11	H12
名誉会長	助川 弘之	助川 弘之	助川 弘之	助川 弘之
顧問	沼田 義雄	沼田 義雄	井坂 信之	井坂 信之
	神林 正雄	神林 正雄	神林 正雄	神林 正雄
			淀縄 武雄	淀縄 武雄
				武井 孝三
会長	武井 孝三	武井 孝三	武井 孝三	小城 恵一
副会長	小城 恵一	小城 恵一	小城 恵一	海老原 邦子
	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡
	尾身 彰一	尾身 彰一	尾身 彰一	尾身 彰一

役職	H13	H14	H15	H16
名誉会長	助川 弘之	助川 弘之	助川 弘之	中川 清
顧問	井坂 信之	松本 茂男	豊島 一男	豊島 一男
	神林 正雄	中川 清	中川 清	山口 雄三
	淀縄 武雄	淀縄 武雄	淀縄 武雄	淀縄 武雄
	武井 孝三	羽成 力男	羽成 力男	羽成 力男
会長	小城 恵一	小城 恵一	小城 恵一	小城 恵一
副会長	海老原 邦子	海老原 邦子	海老原 邦子	海老原 邦子
	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡
	尾身 彰一	尾身 彰一	尾身 彰一	富永 善文

役職	H17	H18	H19	H20
名誉会長	中川 清	中川 清	中川 清	中川 清
顧問	内田 卓男	折本 明	折本 明	折本 明
	山口 雄三	山口 雄三	山口 雄三	山口 雄三
	淀縄 武雄	淀縄 武雄	淀縄 武雄	平田 洋子
	羽成 力男	羽成 力男		
		小城 恵一	小城 恵一	小城 恵一
会長	小城 恵一	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡
副会長	赤津 俊幸	赤津 俊幸	赤津 俊幸	
	瀬古澤 拡	藤田 佑子	藤田 佑子	藤田 佑子
	富永 善文	富永 善文	富永 善文	富永 善文

役職	H21	H22	H23	H24
名誉会長	中川 清	中川 清	中川 清	中川 清
顧問	折本 明	折本 明	折本 明	松本 茂男
	山口 雄三	山口 雄三	山口 雄三	山口 雄三
	平田 洋子	小原 芳道	小原 芳道	小原 芳道
		五頭 英明	五頭 英明	
	小城 恵一			
会長	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡
副会長				
	藤田 佑子	藤田 佑子	藤田 佑子	藤田 佑子
	富永 善文	富永 善文	富永 善文	五頭 英明

役職	H25	H26	H27	H28
名誉会長	中川 清	中川 清	中川 清	中川 清
顧問	矢口 迪夫	矢口 迪夫	矢口 清	矢口 清
	山口 雄三	中川 喜久治	中川 喜久治	中川 喜久治
	小原 芳道	小原 芳道	小原 芳道	小原 芳道
会長	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡	瀬古澤 拡
副会長	成田 稔	成田 稔	成田 稔	成田 稔
	藤田 佑子	藤田 佑子	藤田 佑子	藤田 佑子
	五頭 英明	五頭 英明	五頭 英明	五頭 英明

役職	H29	H30	R1	R2
名誉会長	中川 清	中川 清	中川 清	安藤 真理子
顧問	矢口 清	海老原 一郎	篠塚 昌毅	篠塚 昌毅
	中川 喜久治	中川 喜久治	中川 喜久治	中川 喜久治
	小原 芳道	小原 芳道	説田 賢哉	
会長	瀬古澤 拡	藤田 佑子	藤田 佑子	藤田 佑子
副会長	飯田 芳弘	飯田 芳弘	飯田 芳弘	飯田 芳弘
	藤田 佑子	青木 規幸	青木 規幸	青木 規幸
	五頭 英明	五頭 英明	五頭 英明	栗原 正夫

役職	R3
名誉会長	安藤 真理子
顧問	小坂 博
	中川 喜久治
会長	藤田 佑子
副会長	飯田 芳弘
	青木 規幸
	栗原 正夫

■土浦市国際交流協会規約

(名称及び事務所)

第1条 この会は、土浦市国際交流協会と称し、事務所を土浦市市民生活部市民活動課内に置く。

(目的)

第2条 この会は、土浦市民を主体とした幅広い分野における国際交流を推進し、市民の国際理解と関心を高め、国際感覚を持つ人材の育成を図るとともに、国際化に向けた地域づくりに寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 この会は、前条の目的を達成するためつぎの事業を行う。

- (1) 市民の国際感覚と国際理解を高めることに関すること
- (2) 国際交流推進体制の整備に関すること
- (3) 多様な国際交流の推進に関すること
- (4) 地域・組織と一体化した国際交流の推進に関すること
- (5) 国際交流の「場」づくりの推進に関すること
- (6) 外国人の活動しやすい環境づくりの推進に関すること
- (7) 姉妹都市及び友好都市との交流及び親善に関すること
- (8) 国際協力に関すること
- (9) その他この会の目的達成に必要なこと

(組織)

第4条 この会は、第2条の目的に賛同する次に掲げる者(以下「会員」という。)をもって組織する。

- (1) 第2条の目的に賛同する者
- (2) 各種団体の代表者
- (3) 企業等の代表者
- (4) 関係行政機関の代表者等

2 前項第2号、3号及び4号の会員の職務上の異動があったときは、その後任者を充てる。

(役員)

第5条 この会に次の役員を置く。

- | | |
|---------|-------|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 5名以内 |
| (3) 理事 | 32名以内 |
| (4) 監事 | 2名 |
| (5) 会計 | 1名 |

2 (1)～(5)までの役員は、役員会で選出し、総会で承認を経て決定する。

3 役員に欠員が生じたときは、第2項の規定により補充するものとする。
ただし、役員が前条第2項に該当する場合はその後任者を充てる。

4 理事の中に、事務局担当の理事を置くことができる。

(任期)

第6条 役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

2 欠員により、補充選任された役員任期は、前任者の残任期間とする。

3 特定の地位又はその職にあるため役員となった者は、当該地位又はその職を去ったとき役員資格を失う。

(役員職務)

第7条 会長は、この会を代表し会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 理事は、事業計画等必要事項を審議し、事業の推進に努める。
なお、理事及び事務局担当の理事は、事務局と協力し、事業の企画・運営にあたる。
- 4 会計はこの会の経理を担当する。
- 5 監事は会計を監査する。

(名誉会長及び顧問)

- 第8条 この会に名誉会長、顧問を置くことができる。
- 2 名誉会長は市長があたる。顧問は総会の承認を得て会長が委嘱する。
 - 3 名誉会長及び顧問は、会議に出席して意見を述べることができる。

(会議)

- 第9条 この会の会議は、総会及び役員会とし、必要に応じ会長が招集し会議の議長は会長がこれにあたる。
- 2 会長は必要に応じ部会を設けることができる。部会の細則は会長が別に定める。
 - 3 会議の議事は出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
 - 4 会長がやむを得ない事由があると認めるときは、書面による審議をもって会議の議事を決定することができる。この場合において、前項中「出席者」とあるのは「書面により表決を示した者」と読み替えるものとする。

(総会)

- 第10条 総会において協議する事項は次のとおりとする。
- (1) 規約の制定・改廃に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 役員選任に関する事項
 - (5) その他国際交流推進に関する事項

(役員会)

- 第11条 役員会は、会長、副会長、理事、監事及び会計をもって組織する。
- 2 役員会において協議すべき事項は、次のとおりとする。
 - (1) 総会において協議すべき事項に関すること。
 - (2) 総会において委任を受けた事項に関すること。
 - (3) その他会長が必要と認めた事項に関すること。

(経費)

- 第12条 この会の経費は、次の収入をもって充てる。
- (1) 会費
 - (2) 補助金
 - (3) 寄付金
 - (4) その他の収入

(会費)

- 第13条 会員は、次により年会費を納入しなければならない。ただし、第4条第1項第4号及び第8条に係る者はこの限りではない。
- | | | | |
|-------------|------|----|--------------|
| (1) 第4条 第1号 | 個人会員 | 一口 | 3,000円 |
| (2) 第4条 第2号 | 団体会員 | 一口 | 10,000円 |
| (3) 第4条 第3号 | 法人会員 | 一口 | 10,000円 一口以上 |

(退会)

- 第14条 会員が退会しようとするときは、その旨を会長に届けなければならない。
- 2 会員が死亡又は団体・法人会員が解散若しくは消滅したときは、退会したものとみなす。
 - 3 会員が、特別な理由なく会費を引き続き3年以上納入しないときは、役員会の承認により退会させることができる。

(会 計 年 度)

第 15 条 この会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事 務 局)

第 16 条 事務局の組織は次の通りとし、会長が委嘱する。

- (1) 事務局長 1 名
- (2) 事務局員 若干名

(委 任)

第 17 条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

付 則	この規約は平成 4 年 2 月 2 9 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 6 年 5 月 1 2 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 7 年 5 月 1 4 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 1 2 年 6 月 3 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 1 3 年 6 月 2 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 2 2 年 5 月 3 0 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 2 4 年 6 月 1 7 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 2 6 年 5 月 1 9 日 から施行する。
付 則	この規約は平成 2 8 年 5 月 2 1 日 から施行する。
付 則	この規約は令和 3 年 5 月 1 4 日 から施行する。

土浦市国際交流協会設立 30 周年記念誌
土浦市国際交流協会 30 年のあゆみ

2022 年 3 月 31 日 発行

編集・発行：土浦市国際交流協会
〒300-8686 茨城県土浦市大和町9番1号
土浦市役所市民生活部市民活動課内
TEL：029-826-9051
メールアドレス：kokutab14@city.tsuchiura.lg.jp
ホームページ：http://www.tsuchiura-ia.jp/

